企画で盛大な総会が催されました。

開会に先立ち、ステージでは和田健

なさんが、この日のために準備した

第29回在京白望會総會

# ○名が集る

第5号 平成10年9月7日

発行

在京白堊会

東京都港区虎ノ門一丁目十六番八号

### 九 回総会開催

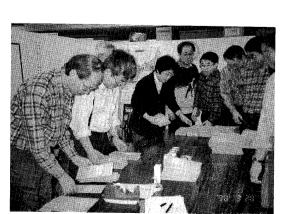
堊の夜」を楽しみました。 橋宮司)から、場所を変えての総会。 世話になっていた東郷神社記念館 タービルで恒例の在京白堊会総会(第 一六○名の参加者は、ひとときの 今年の総会幹事である昭和41年卒の が開催されました。昨年までお 一八周年創立記念日である 浜松町の国際貿易セン

美酒をくみかわす (手前は及川会長)

年卒)による挨拶が述べられました。 のことばに続き、 オーケストラによる弦楽四重奏の調べ 君 大平洋司副会長(昭26年卒) (平成6年卒)が率いる東京大学 プニングに参加者は拍手喝采。 「文化の白堊」を象徴 及川昭吾会長(昭25 わざわざ佐々木 の開会



述べました。総会議事では、星野健秀 成卒の大学生から、盛岡中学の大先輩 れました。 務の報告・提案があり、満場で了承さ 事務局長(昭43年卒)から会計など会 在の白堊校の活躍を伝えながら祝辞を 繁夫教頭 まで、世代は違っても同じ白堊の学舎 い乾杯の音頭で懇親会がスタート。平 に学び、同じ真紅の旗のもとに集った 戸将慈先輩(昭6年卒)による力強 体感で、 総会のあと、参加者の最長老である (昭41年卒)がかけつけ、 会場はすっかり白堊一 色。



準備作業をする昭和41年卒業生



T E L 0 3 A X 0 3

 $\begin{pmatrix} 3 \\ 5 \\ 0 \\ 3 \end{pmatrix}$  $\begin{pmatrix} 3 & 5 & 0 & 6 \\ 6 & 6 & 6 \end{pmatrix}$ 

郎常任幹事(昭41年卒)の旗振りによ る応援歌蛮唱そして校歌斉唱で、

酔いもほどよく、宴が盛りあがった 総会幹事で元応援団長の白石源次

7年度幹事から次年度幹事である昭和 1ードは最高潮に達しました。最後に 星野健秀法律事務所内

飯島ビル202号

「世に詠われし浩然の…」

都会の夜の帳に散っていきました。 42年卒の代表へバトンタッチ。

ぞれ級友との旧交を暖めようと、

会が終わっても余韻さめやらず、

大そ

昭和41年卒業生のみなさん、本当に

早々の「高校の勉強は大学入試によっ も大いに伸ばそうと試みたが、入学 たを学び、柔道部で身体を鍛え、知性 将来日本の指導者たるべく心身をみが た。入学にあたり自らに課したことは、 その伝統を学びたいという一心であっ き、人格を陶冶することであった。 の日本の指導者を輩出した学校であり 盛岡一高に入学した。盛岡一高は歴代 自彊寮では集団生活の中での生きか 私は昭和二十八年三月、志を抱いて

応援団の後輩達と談笑する玉澤さん

綿密な計画を立て、学校側に迷惑がか

柱である。自分の責任において、必ず かったのは、学校と生徒という大きな 自由奔放に生きる私が決して忘れな うバックボーンがあってのことである。

しろにせず柔道部主将、応援団長、体 険旅行のために学校の部活動をないが 資金も有志のカンパに頼り、個人の冒 からないよう納得が行くまで考慮した。

の所在を明確にしさえすれば可能な限 て、何より大事なのはそうやって責任 育委員長としての任を果たした。そし

思う。

### 60,60,60,60,60,60,60 ラと自

て完結する」という先生の言葉に失望

玉澤

徳

郎郎

(昭31年卒)

ドラム缶のいかだによる北上川下り どまらず、応援団長として徹頭徹尾バ 頂などなど、書き上げればきりがない 神山頂への縦走、授業をサボっての上 田のNHK放送の鉄柱アンテナへの登 ンカラ哲学を貫き、下駄で岩手山登頂 (盛岡―石巻間)、雪中の盛岡から姫

の範とした英国パブリックスクールの たものだった。かつての旧制一高がそ てられない暗記一辺倒の無味乾燥とし

た。授業は想像力と創造力をかきた

「自由と規律」の精神は無に等しかっ

した。心身を鍛えることは部活動にと において十二本の県大会優勝旗を獲得

認めてくれた大人と大人の約束」とい

され、間違った自由を謳歌する高校生

「個人の自由が尊重される。」 が曲解

りばかりが突出してくるが、しかし、

こう書くといかにも破天荒な生活ぶ

ほどさまざまな冒険にも挑戦した。

この自由は「生徒を一個の人格として

錬磨に力を入れた。体育委員長として

するため、運動部の強化による人格の

そこで私は知育に偏った校風を是正

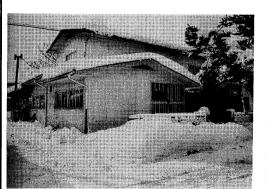
運動部の強化を遂行し、結果、高総体

り私の自由を認めてくれる先生が少な 覚を持たせて頂いたように思う。 すんだ暗黙のルールだった。そのルー は責任を取る、というのが先生方とむ 重し合い、やりたいことをやるからに 束で結ばれていた。お互いの人格を尊 まり私と先生たちとは対等な大人の約 からずおられたということである。つ ルを守ることにより、私らは大人の 現在の教育現場に目を向けると、

> 子供扱いの目で縛り過ぎてはいない 現在の高校教育現場は生徒を余りにも が増えているのは残念である。我々が が余りにも少ないことをとても残念に の根幹にかかわることを話し合う時間 にたち、魂をぶつけ合って人間として ならないのか?先生と生徒が同じ視線 か?我々はなぜ生き、勉強しなければ せることができる真の自由であった。 責任に基づき、どのようにでも膨らま 高で謳歌した自由は、個人の自覚と

我らが盛岡一高の恩師の皆様に改めて を探っていきたいと思う。 なく現在の教育現場に生かしていく道 感謝申し上げ、感慨に更けるばかりで 青春時代を豊かに過ごさせて頂いた

(元防衛庁長官)



「雪の自彊寮」

### 自 望 人 脈

# 五靈觀徳心祥



## 家 佐藤法雄君(昭50年卒)

一高在校中にも、県の芸術祭で三年分野でもそうそうたる人材を輩出してい学生の頃に始めた書道がきっかけい学生の頃に始めた書道がきっかけいが、わが同期の佐藤法雄君。場したのが、わが同期の佐藤法雄君。場したのが、わが同期の佐藤法雄君。

世界へと進んだ。 一世界へと進んだ。 一世界へと進んだ。

歩を固め、平成四年ソウルで開催され原翆邦賞を受賞するなど、斯界でも地同六十年から三年連続で日本書人展桑昭和五十七年には北方書展最高賞、

の場を大きく広げている。書美術展」に出品するなど、その活躍た「国際篆刻展」、同六年には「世界

連続最優秀賞を受賞するなど、早くも

仰ぎたい」 ています。同窓生の皆様にもご高覧を「一年後には盛岡での個展も計画し での個展も予定。

文会展も開催している。来年には銀座

【村岡智恵(昭50年卒)記】に書道教室を開いているとのこと。なお、佐藤君は池袋で、白堊の仲間

# 長寿時代に示された先輩の生き方

小田島雅也

(昭28年卒)

パーティーを思い出した。(愛称トッチャン)の九十二才を祝うを入れながら春に行われた村井先生ようとしている。居間に座り団扇で風ようとしている。居間に座り団扇で風しかし暦は秋を示し敬老の日を迎え

横浜中華街の中華飯店に、先生を待ちうける教え子たち(全員が還暦を超え。古希に至る)は、現れた先生の元え。古希に至してとは、まさに圧倒されたのである。同期生で表がにはしっかり応答され、席につかれた。ビールを呑みながら教え子達のれた。ビールを呑みながら教え子達のれた。ビールを呑みながら教え子達のれた。ビールを呑みながら教え子達のれたの鑑であった。一同を代表して挨拶された先輩が「まさに私共の二十挨拶された先輩が「まさに私共の二十大性の生き方を、身をもって示してくれている先生です」と言われたが、けたし名言であると思う。

機会があった。
・センター顧問 内田さんの話を聞くの講演会があり、日本エアロビックスの講演会があり、日本エアロビックス

上に登場された。 胸には鮮やかなエンブレム、颯爽と壇講師は九十四才、朱色のブレザーの

う。敬老の日を前に改めて目標を確認 さかけであるが、このように九十才を き方」について身をもって示してくれ を方」について身をもって示してくれ と方」について身をもって示してくれ とがしてならない。 そのためにも身も心もリフレッシュ でいる気がしてならない。 そのためにも身も心もリフレッシュ とのかが、このように九十才を とれる人の生き甲斐を求めて努力を続けれる人の生き甲斐を求めて努力を続けれる人の生き甲斐を求めて努力を続けれる人の生きが、といる。 したれる人の生き甲斐を求めて目標を確認

した次第である。

## 来年は在京白堊会三〇周年 記念会報を発行します

えます。 設立されて以来、 在京白堊会は、 来年で三〇周年を迎 昭和四十三年八月に

会を創った歴史を持っています。 盛り上がりに、在京の白堊OBに工藤 に晴れ舞台で準々決勝まで駒を進めた 大会に岩手県代表として出場し、さら |正先輩(昭17年卒)が呼びかけて、 当時、盛岡一高野球部が甲子園全国

白堊会があります。 輪が広がり、発展を続け、今日の在京 平成2年に、創立二〇周年記念とし 以来、三〇年を経て会は年々参加の

とにしました。 業の一環として記念会報を発行するこ は三○周年を迎えるにあたり、記念事 て、記念文集を作成し発行しました。 再来年の白堊一二〇周年を控え、会

いものと考えています。 次の同期会の活動などを中心に編集さ について了承された後、大平副会長 れ、今後の発展の「道しるべ」にした ジの冊子で、会の三〇年の歩みや各年 ました。 記念会報は、A4版16ペー 志による記念会報編集委員会が発足し (昭26年卒)を編集委員長として、有 七月十四日の幹事会で記念会報発行

で原稿・写真を募集しますので、ご協

昭和五十九年七月、在京岩手県人連

会員同窓生の皆様には、下記の要領

力ください。

、「三〇年の会のあゆみ」の原稿

①原稿…在京白堊会での交流や総会 などの思い出・話題を八○○字程

②写真:在京白堊会の総会や幹事会 などの写真何枚でも。 「各年次の同期会」の原稿・写真

①原稿…各年次の同期会の活動や話 題の紹介(盛岡の活動も含めても

岩手県人の郷土のシンボルとして愛

②写真…①の原稿とセットで貸して 頂きます。

三、その他、母校・白堊同窓会に関 る話題などの原稿

【送り先】

サン・ユー イメージメントネット 一〇五 港区芝二一三一二二

ワーク 日向裕司あて

(丁EL五四四二—一七七五) FAX五四四二一八六二二



## 中村市助さんの思い出 八重畑達男(昭18年卒)

五年、十七年四月、山形高校へ進学し 助さんは盛岡中学に入校、寄宿舎生活 昭和十二年四月、宮古出身の中村市 司法の道へ進みました。

と致します。 輩との過ぎ去りし日々より思い出深い 十年間の輝ける人生でした。 で勉学、温厚、熱心、愛情に満ちた五 の青春の日々でした。戦後の激動の中 やさしいお姿をお伝えして追悼の一文 事務局長よりの訃報に接し、一年後輩 私が御指導、鞭撻を戴いた、中村先 去る六月十六日、在京白堊会の星野 その間、支那事変、日米開戦の時代

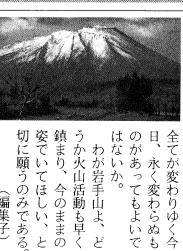
> 飾りました。 で記念植樹を手植えして、故郷に錦を 折、里帰り陸中海岸を旅し、宮古駅前 合会創立十周年、三陸鉄道開業記念の

さい。さようなら 年の「自彊寮設立百年祭」の実行委員 活躍されました。 として、在京OBのとりまとめ役で大 酒に酔い一番美しいお顔でした。 真面目な意見を述べ、美味しい岩手の 総会の準備会で中村先輩は実行計画の 中村市助さん、ごゆっくりお眠り下 なお、記憶に新しい思い出は、 本当に次から次へと思い出されます 昭和六十二年三月二十九日、白堊会

堊校の屋上から眺めた岩手山、どこか 山、岩山から望んだ岩手山、そして白 機にあるという。北上川から見た岩手 されている岩手山が、噴火、爆発の危 らも素晴らしい景観で、その絵巻はい つまでも瞼に焼き付いている。 あの勇姿は、どれほど私たちの心を 句 和ませ、奮い立たせてくれたで た、といっても過言で ある「神」でもある。 は、信仰の対象でさえ あろうか。人によって はない。岩手の風土そ 手山によって育てられ 啄木や賢治の文学も岩

育まれた。時代は移ろ 大気をここに集めた い、二十一世紀を迎え 岩手山の精気によって る」気概は、秀麗高き のものである。 「世に詠われし浩然の 私たちの、まさに ようとしているが、

全てが変わりゆく今 鎮まり、今のままの うか火山活動も早く はないか。 のがあってもよいで わが岩手山よ、ど 永く変わらぬも



(編集子)